

NEWS(PRESS) RELEASE

令和 6 年 8 月 29 日

志摩市 危機管理統括監

防災危機管理室

タ イ ト ル	災害対策用トイレトラック購入に係るクラウドファンディングを実施します
概 要	この度、志摩市は、能登半島地震における災害時のトイレ不足の状況を踏まえ、南海トラフ地震など大規模災害時におけるトイレ不足を解消するとともに、衛生環境の維持および被災者の健康を確保するためトイレトラックを購入し、三重県で初めて、移動設置型トイレを相互派遣できる全国ネットワーク「災害派遣トイレネットワークプロジェクト」に参画します。 このトイレトラックは、5 つの洋式トイレ、給水タンク、汚水タンク、ソーラーパネルを備え災害時にすぐ使用できる機能が備わっており、電動車いすりフターにより車いすの方も使用できます。 この災害対策用トイレトラック購入に際し、クラウドファンディングを実施いたしますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。 詳細については別添チラシをご確認ください。
実 施 期 間	令和 6 年 9 月 1 日～令和 6 年 10 月 31 日 ※実施開始日まではクラウドファンディングサイトが開設されていません。そのため、掲載は 9 月 1 日以降でご配慮をお願いいたします。
目 標 金 額	800 万円 ※本プロジェクトは、寄附総額が期日までに目標金額に届かなかった場合でも、必ず実行します。
寄 附 方 法	社会問題解決に特化したプラットフォーム「READYFOR」を通じて寄附を募集します。 https://readyfor.jp/projects/mintore-shimashi からアクセスをお願いします。 携帯電話、スマートフォンからはこちら → 
お 問 合 せ 先	志摩市 危機管理統括監 防災危機管理室 担当 倉田 TEL 0599-44-0203 FAX 0599-44-5252 e-mail bosaikikikanri@city.shima.lg.jp



災害派遣トイレネットワークプロジェクト

みんな元気になるトイレ

志摩市 助けあいジャパン

被災時に深刻化するトイレ問題解決のため
志摩市は「みんな元気になるトイレ」を来春に導入。
災害派遣トイレネットワークに参加し、
いざという時には、全国の参加自治体が駆けつけ
支援し合う、助けあいの仕組みに加わります。



能登半島地震への災害派遣・稼働の様子

「クラウドファンディング」へのご支援のお願い

● 募集期間

令和6年9月1日（日）9:00～10月31日（木）23:00

● 目標金額

8,000,000円

● 寄附方法

社会問題解決に特化したプラットフォーム「READYFOR」を通じて寄附を募集します。

① <https://readyfor.jp/projects/mintore-shimashi>にアクセス

② プロジェクトの寄付にすむ（※ログインが必要です） から進み、初めての方は [はじめて利用する方は新規登録へ](#) で登録後、ご寄附をお願いします。

※寄附方法（決済方法）はお振込み、クレジットカードでのお支払いとなります。



災害時、トイレ問題が深刻化し、せっかく助かった命が危険にさらされます。

- 災害時、停電や断水等によりトイレが使えなくなり、圧倒的にトイレが不足します。
- 劣悪なトイレ環境→トイレ我慢→飲食我慢→体調悪化の連鎖となり、せっかく助かった命が危険にさらされます。
- 熊本地震では、災害死50人に対し、避難生活の心身負担で81人を亡くし、災害より避難で命を失いました。



出典：日本財団



出典：助けあいジャパン



出典：助けあいジャパン

● 熊本地震：関連死の原因と人数

原因	人数
地震のショック、余震への恐怖による肉体的・精神的負担	112
避難所生活などの肉体的・精神的負担	81
医療機関の機能停止などによる初期治療の遅れ(転院、既往症の悪化など)	46
電気、ガス、水道などの途絶による肉体的・精神的負担	14
社会福祉施設などの介護機能の低下	9
交通事情などによる治療の遅れ	2
多量のじん灰の吸引	1
その他(家屋倒壊による外傷など)	15

※熊本県／震災関連死認定者への調査

導入するモビリティトイレ「みんな元気になるトイレ」とは？

① どこでも使える

4WD、寒冷地対策等、どこへでも移動ができ、給水・汚水タンクを備えているため、到着後すぐに使用することが可能です。

② 快適に使える

仮設トイレは幅90cmに対し、1.5mの広々サイズ。被災地では、お子様の着替えからお年寄りの付き添い、歯磨き、お化粧まで、レストルームとしての役割が可能です。

③ 誰でも使える

洋式の水洗トイレを備えた個室が5室、また最後部は、電動車いすリフター、オストメイト対応設備、おむつ交換台、ベビーキープを備えた多機能トイレ室となっています。

④ 停電でも使える

天井にソーラーパネルを設置、蓄電システムにより、停電時でも使用する電気は自車でまかない、周辺や室内を明るく、被災地の夜に安全・安心を届けることができます。



災害派遣トイレネットワークとは？

仲間の自治体が被災した際、全国から駆けつけ、良質なトイレを支援し合う仕組み。



全国の自治体が1台ずつ配備し、被災地に集結できたなら、災害時に深刻化するトイレ問題を大きく解消できるはず。という主旨に賛同し「みんな元気になるトイレ」を導入した自治体が参加するネットワーク。

今回の導入により、志摩市が被災した際には、全国の参加自治体から支援を受けられることになります。

- 導入自治体：22
- みんな元気になるトイレ：84室 ※4台は3室仕様
- 対応トイレ回数：27,500回/日

災害派遣実績

- 活動開始：2018年
- 派遣箇所：12か所
- 累積支援日数：708日
- 使用者数：約54,300人
- 使用回数：約108,600回

平成30年7月豪雨 | 倉敷市（2か所）

- 2018年 7月10日～2019年 5月20日 | 10か月
- 倉敷市立第二福田小学校（避難所）他1か所



令和元年台風15号 | 君津市（3か所）

- 2019年 9月12日～10月2日 | 18日間
- 君津市文化ホール（避難所）他2か所



令和元年台風19号 | 長野市

- 2019年 10月18日～12月16日 | 60日間
- 長野県赤沼区公会堂（ボランティア拠点）



令和元年台風19号 | いわき市

- 2019年 10月21日～11月27日 | 38日間
- いわき市立平第四小学校（現地対策事務所）



令和3年8月豪雨 | 大町町

- 2021年 8月20日～12月1日 | 104日間
- 大町町災害ボランティアセンター



令和4年台風8号 | 松崎町

- 2022年 8月15日～8月29日 | 15日間
- 松崎町災害ボランティアセンター雲見サテライト本部



令和5年九州北部豪雨 | 久留米市

- 2023年 7月16日～
- 久留米市田主丸町（被災地域）



令和4年台風15号 | 静岡市

- 2022年 9月27日～10月27日 | 31日間
- 特別養護老人ホーム有度の里



令和4年台風15号 | 静岡市

- 2022年 9月28日～10月3日 | 6日間
- 静岡県役所清水庁舎（清水区役所）



令和5年九州北部豪雨 | 久留米市

- 2023年 7月16日～9月27日 | 74日間
- 久留米市田主丸町（被災地域）

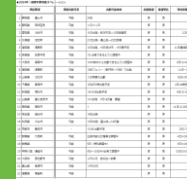


能登半島地震 | 被災5自治体へ22台を派遣、延べ25万人・118万回のトイレ支援、ネットワークの支援継続の仕組み・サポートにより、現在も18台が支援を継続中。

※ 復旧による移設・再派遣含む

● 派遣調整

22自治体の担当者が個々に被災自治体に連絡をしてしまったら、混乱状態の被災地を、更に混乱させてしまいます。事務局が各自治体の出動態勢を把握、被災自治体とワンストップで派遣調整を行うことで、円滑な派遣を実現しています。

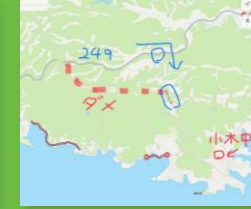


自治体	台数	派遣日	派遣先	備考
石川	1	1/2	能登半島	
福井	1	1/2	能登半島	
岐阜	1	1/2	能登半島	
愛知	1	1/2	能登半島	
三重	1	1/2	能登半島	
滋賀	1	1/2	能登半島	
京都	1	1/2	能登半島	
大阪	1	1/2	能登半島	
兵庫	1	1/2	能登半島	
奈良	1	1/2	能登半島	
和歌山	1	1/2	能登半島	
鳥取	1	1/2	能登半島	
徳島	1	1/2	能登半島	
高松	1	1/2	能登半島	
香川	1	1/2	能登半島	
岡山	1	1/2	能登半島	
広島	1	1/2	能登半島	
山口	1	1/2	能登半島	
福岡	1	1/2	能登半島	
佐賀	1	1/2	能登半島	
長門	1	1/2	能登半島	
熊本	1	1/2	能登半島	
大分	1	1/2	能登半島	
宮崎	1	1/2	能登半島	
鹿児島	1	1/2	能登半島	
沖縄	1	1/2	能登半島	



● 情報共有

能登半島地震では、道路状況等の情報が一切ない中、1月2日に1台、翌3日に2台、4日には4台と、続々と能登半島へ災害派遣に入りました。先行自治体から後続へ次々と送られる情報を頼りに、最大限の安全配慮に努めることができ、22台30か所への派遣を無事故で実施できました。



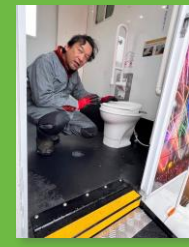
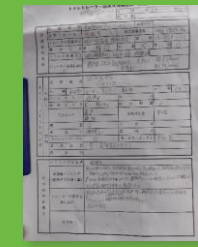
● 補給支援

「みんな元気になるトイレ」は水が生命線。毎日、大量の水をもらう補水先の開拓から給水車確保、巡回ルートの方定、昼夜問わずの給水活動等、補給チームがこれらの任務を担い、絶やすことなく補給を続け支援継続を支えてきました。



● 点検・補修巡回

能登半島地震の支援では、1台あたり4万回を超える使用となり、各所に破損等が発生してきます。約3週間に一度、参加自治体が当番で全車を点検、翌週、点検結果をもとに修理事業者が補修に回ります。これも支援を止めない、継続に絶対に必要な活動です。



ふるさと納税型クラウドファンディング | ご支援のお願い

近年、災害は頻発化・激甚化の傾向にあり、その被害は深刻さを増しています。

志摩市においても、万一ではなく、明日起きる大事として防災・減災事業に取り組んでおり、この度「みんな元気になるトイレ」の導入に至りました。災害時でも、個室化され、安全で、広く、清潔なトイレを市民の皆さまに提供することが可能になります。

また導入後に参加する「災害派遣トイレネットワーク」は、全国から参加自治体が駆けつけ合う助けあいのネットワークです。

「みんな元気になるトイレ」の配備が進めば進むほど、受けられる支援が増加していく仕組みであり、志摩市もネットワークの強化に寄与したいと考えており、どうか「みんな元気になるトイレ」の導入資金として、ご支援の程よろしくお願い致します。

●企業・団体様のご寄附について

☐ 法人による寄附は損金算入による税控除が受けられます。（企業版ふるさと納税の対象ではありません。）

●個人様のご寄附について

☐ ふるさと納税と同様に、実質負担2,000円でご寄附いただけます。

※ワンストップ特例制度を活用できます。（確定申告不要で寄附金控除を受けられる制度です。ふるさと納税先が1年間で5自治体以内であれば利用可能です。）※詳しくは

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/mechanism/deduction.html

●ご寄附いただいた皆様のお名前を「みんな元気になるトイレ」後部に掲載いたします

☐ 約15年～30年の間、ご協力いただいた皆様のお名前を背負い、災害時は避難所や被災地支援に赴きます。

☐ 平時は災害時のトイレ問題の普及啓発のためイベントなどに活用する予定です。

☐ 寄附者様の想いをカタチにし被災者に届けるため1万円以上の寄附者様（個人・法人ともに）のお名前をトイレ後部に掲載します。（希望者のみ）
※寄附者様の数に合わせて、レイアウトや掲載サイズは変動します。

●クラウドファンディング会社は、READYFOR株式会社を利用します

同社は、社会課題解決型のクラウドファンディングを多数成功に導いており、私たちの想いに共感いただける寄附者の方とより多く繋がれると考えたためです。

☐ 本プロジェクトは、寄附総額が目標金額に届かなくても「みんな元気になるトイレ」導入事業を実施します。



寄附額	車体掲載サイズ	「みんな元気になるトイレ」 オリジナルステッカー	お礼状	感謝状
5千円	-	○	○	
1万円	S1	○	○	
3万円	S2	○	○	
5万円	M	○	○	
10万円	L	○	○	
30万円	XL	○	○	
50万円	XXL	○	○	○
100万円	XXXL	○	○	○

※本プロジェクトに対する寄附金は、個人・法人の区別なく、志摩市から受領証明書が発行されます。

●オリジナルステッカー



100万円 : 60×8.0 → ● XXXL

50万円 : 50×6.5 →● XXL

30万円 : 40×5.5 → ●XL

10万円 : $30 \times 4.5 \rightarrow \bullet L$

5万円 : $25 \times 2.5 \rightarrow \bullet M$

1、3万円 : $7 \times 1.5 \rightarrow \bullet S$

※単位：CM

車体掲載サイズ（目安）

